

平成 22 年 3 月期第 3 四半期連結決算発表

平成 22 年 3 月期第 3 四半期連結業績は引き続き堅調

当期間におけるわが国の経済情勢は、一部には景気が底を打ったとの見方も出ておりますが、消費者の節約志向やデフレの影響を受け、依然として消費動向は回復の兆しが見えにくい状況が続いております。

このような状況の中、食品部門は高付加価値製品の上市、新規顧客獲得等の販売努力及び原材料を含むコスト低減を推進しました。また、イースト、パン品質改良剤、発酵液等の新製品提案を積極的に行いました。

バイオ部門は、「創薬支援事業」に注力し、製薬企業等顧客のニーズを掘り起こすとともに、遺伝子組換え技術を用いた新製品の上市及び生産性の向上、コスト低減の推進及び固定費削減を積極的に行いました。また、昨年 10 月に養魚飼料事業を日清丸紅飼料㈱へ譲渡し売上が減少しましたが、その経営資源を動物実験関連ビジネスに集中し、受託飼料等の売上増を図りました。

連結業績につきましては、売上高は前年同期を下回りましたが、固定費削減や原材料コストの安定により、増益となりました。この結果、売上高は 476 億 54 百万円、経常利益は 22 億 3 百万円、四半期純利益は 14 億 28 百万円となりました。

平成 22 年 3 月期 連結業績予想

食品部門は、今後も食品市場における消費低迷が続く様相を呈しており、依然厳しい環境下で推移すると思われれます。このような状況の中、提案型営業を積極的に推進し、高付加価値製品の開発や上市に注力するとともに、製パン関連業界以外の新たな市場開拓を推し進め、売上の底上げを目指します。また、生産面においては、引き続き品質保証体制の強化を徹底し、「安全・安心」な製品作りに努めてまいります。

バイオ部門は、積極的な拡販活動と一貫した研究・開発支援サービスの提案により、主要得意先である製薬企業からの受注が回復基調になりつつあります。引き続き診断薬原料を中心に遺伝子組換え技術を用いた新製品の上市や、アレルギー検査・残留農薬等の食品分析事業の拡大を推進してまいります。

また、海外事業においては B R I C s 諸国への拡販を海外子会社を活用して進めてまいります。

連結業績予想につきましては平成 21 年 10 月 29 日に発表しました「平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の業績予想に変更はございません。

以上